

令和6年度 世田谷区自立支援協議会本会（第1回）議事録

日 時 令和6年7月26日（金） 18時30分～20時45分
開催方法 集合開催及びオンライン
場 所 東京リハビリテーションセンター世田谷 1階 地域交流スペース
出 席
（会場） 鈴木敏彦 荻野陽一 河合高鋭 中川邦仁丈 杉山真生子 野村武夫
藤原力 太田一郎 島添聡 花澤雪乃 濱健太郎 鈴木さおり 谷田部成徳
大野圭介 古川克己 高橋明良 片岡学
（オンライン） 丸山晃 松本俊一 堀伸治 山梨武夫 等々力寿純 西村周治 土屋仁
川邊循 天野実千代 永嶋千秋 阪田純 齊藤一郎 坂本剛 田中克佳
三浦与英 橋元晶子 小池宗和 荒井広祐 松浦聖

(敬称略)

1. 開会挨拶
2. 世田谷区自立支援協議会委員構成 資料1-1
3. 令和5年度自立支援協議会活動報告 資料2
4. 令和5年度日中サービス支援型グループホーム実績報告 資料3
5. 障害者差別解消に関する令和5年度の取組み状況及び令和6年度取組み予定について
資料4-1-1～4-2-2
6. 上記報告に関する意見交換
7. 令和6年度自立支援協議会の取組みについて 資料5-1 資料5-2
 - （1）運営会議・エリア協議会・相談支援ワーキング・専門部会（地域移行部会、虐待防止・差別解消・権利擁護部会、子ども部会）・シンポジウム実行委員会
 - （2）上記報告における質疑応答
8. 今後の自立支援協議会について
 - （1）自立支援協議会の概要 資料6
 - （2）地域課題抽出シート（仮）について 当日配布資料2-1 当日配布資料2-2
 - （3）上記における意見交換
9. 世田谷区からの報告・協議事項
10. 閉会挨拶
11. 事務連絡

<配布資料>

- 【資料1-1】 令和6年度本会委員名簿
- 【資料1-2】 令和6年度エリア・部会・相談支援WG・シンポジウム実行委員会名簿
- 【資料2】 令和5年度自立支援協議会活動報告案
- 【資料3】 令和5年度日中サービス支援型GH実績報告

- 【資料４－１－１】（概要版）令和５年度取組み状況及び令和６年度取組み予定
 - 【資料４－１－２】（本編）令和５年度取組み状況及び令和６年度取組み予定
 - 【資料４－２－１】（件数）障害を理由とする差別に関する相談・問合せ及び対応の状況（Ｒ６．４～６）
 - 【資料４－２－２】（要旨）障害を理由とする差別に関する相談・問合せ及び対応の状況（Ｒ６．４～６）
 - 【資料５－１】令和６年度自立支援協議会活動日程案
 - 【資料５－２】令和６年度運営会議・エリア・部会等活動計画
 - 【資料６】自立支援協議会の概要
-
- 【当日配布資料１】Ｒ６年度第１回本会参加者名簿
 - 【当日配布資料２－１】自立支援協議会における地域課題抽出シート（仮）活用の提案
 - 【当日配布資料２－２】地域課題抽出シート

１．開会挨拶

区 障害福祉部 障害施策推進課 宮川課長

令和６年度第１回自立支援協議会を開催する。

２．世田谷区自立支援協議会委員構成 資料１－１

事務局 基幹 鈴木

委員については当日配布資料１－１をもって報告とさせていただく。色がついている方々が本年度より委員にご就任いただいた方々である。

３．令和５年度自立支援協議会活動報告 資料２

事務局 基幹 鈴木

各エリア協議会・部会について、資料２をもって報告とさせていただく。

４．令和５年度日中サービス支援型グループホーム実績報告 資料３

事務局 基幹 薬師丸

日中サービス支援型グループホームについては資料３の通りである。障害者の重度化・高齢化に対応するため、平成３０年度の障害福祉サービス等報酬改定において創設され、年１回活動状況の報告を自立支援協議会で行う事が義務付けられている。

令和６年７月１２日に開催された自立支援協議会運営会議にグループホームバンプルのサービス管理責任者が出席され、資料３の報告をされた。その際、【３ 第三者評価結果】の項目で、「少数意見として否定的な意見の方もいらっしゃる」という報告があるが、どういうことかという質問があった。その回答は、「外国籍の職員との、言葉の壁等に対する不安がある」ということであった。また、第三者評価よりバンプル職員も自立支援協議会に参加してはどうかという提案があり、報告されたサービス管理責任者は参加の意向を示されていた。

鈴木会長

日中サービス支援型グループホームは機密性が高いということで、適正な運営が出来ているか法律に基づき定期的に自立支援協議会の中で報告、評価を受けることとなっている。

５．障害者差別解消に関する令和５年度の取り組み状況および令和６年度取り組み

資料４－１－１～４－２－２

区 障害福祉部 障害施策推進課 宮川課長

資料4-1-1をもって説明する。

1 ページ、令和5年度の取組み<1>障害差別に関する相談状況 ①相談・問合せ件数の表の主訴件数と変更後件数が異なる理由は、受付し、対応整理する中で、受付時の主訴と変更が生じたためである。変更後の件数で状況の確認を行っている。

5 ページ、令和6年度の取組み予定について令和5年度との変更点を説明する。

- ・<2>⑤区内小学校への手話講師の派遣。72クラスに派遣をする予定であったが、学校への周知を始めたところ反響が大きく、現段階で90を超えるクラスに派遣を行う予定である。
- ・<5>①民間事業者と連携したPR事業等による普及啓発。行政単独で情報を発信するだけでは個人に届かないこともある。民間事業者から提案をいただき、連携しながらPRする事業を新たに実施する。
- ・<6>②区役所の待機手話通訳者の配置時間の拡充。今年度より待機手話通訳者の待機時間を拡充し、スマホやタブレットを利用した遠隔手話通訳も実施している。

6. 上記報告に関する意見交換

鈴木会長

次第3「自立支援協議会活動報告」、次第4「令和5年度日中サービス支援型グループホーム実績報告」、次第5「障害者差別解消に関する取り組み状況」について、各委員の皆様よりご質問、ご意見等いただけたらと思う。

〈質問者〉

相談支援センターあい 管理者 中川委員

【次第4「令和5年度日中サービス支援型グループホーム実績報告」について資料3】

他施設への通所を前提としないグループホームであるがゆえ、社会との接点が切れてしまうことを念頭に置いて、自立支援協議会での報告・評価という位置付けがされているのではないかと考えている。グループホームの職員支援も含めた当事者支援として自立支援協議会に位置づけられていると認識している。

- ・報告書そのものは、国や区として書式が決まっているのか。
- ・2（1）「日中における支援」について、「余暇支援や相談等」とある。その他にも相談という言葉が散見されるが、こういった支援として相談が成り立っているのか。
- ・2（2）「権利擁護の取り組み」に金銭管理について記述がないが、どのようになされているのか。
- ・2（3）「虐待防止の取り組み」について、ニュース等でグループホームでの虐待問題が報道されている。そのような中、研修の課題がある。密室となりやすい環境の中で虐待を含めた職員の質の向上のための取り組みは、自立支援協議会として把握する必要がある。
- ・2（4）「健康管理の取り組み」について、通院同行もしているかと思われるが、どこまで利用者の健康管理に介入しているのか、健康指導を受けながら利用者の健康維持にどのように取り組んでいるのかも（自立支援協議会として）把握すべきである。
- ・どのような体制で、どのような職員配置で支援しているのかが明示されるといった透明性の確保が必要である。例えば、夜間は何名で対応し、日中は何人体制なのか。日中支援型の人員配置は5対1と思われるが、どのように配置基準を満たしているか。そのようなところまで報告がないと運営の評価は難しい。
- ・平日の日中にグループホームを利用されている方は、2名くらいとなっているが、介護サービス包括型のグループホームとの違いが見えてこない。日中支援型のグループホーム

の特長や必然性をプレゼンテーション的に説明できると見えてくると思う。

- ・自立支援協議会が、グループホームの現場で働く職員が困難な状況に陥った際に支援者を支援する立場として機能できるようにしたい。この書式では課題や職員の困り事が見えてこない。そのため運営の評価が難しいのではないかと考える。

鈴木会長

書式や様式、内容について決まりごとがあるのか、障害施策推進課からご返答いただきたい。

〈回答者〉

区 障害福祉部 障害施策推進課 宮川課長

国の方で書式については決まっていないと記憶している。国より、このような内容について協議会で共有すると良いという文章は出ている。その内容を基に、パンブルが開所する際に、資料3の書式が作成されたと記憶している。

鈴木会長

相談支援の内容や、金銭管理、研修や職員の質の問題、健康管理、人員体制、全体的な日中サービス支援型の特色が見えにくい部分があると意見があった。この意見に関しては、運営法人に報告し、回答をいただくようにしたい。自立支援協議会と事業所、法人とのやり取りが大切になってくると思っている。現場の職員へのフォローアップについてもできることがないか検討すべき事と考える。

〈質問者〉

地域生活支援センターMOTA 山梨委員

【次第5「障害者差別解消に関する令和5年度の取組み状況及び令和6年度取組み予定」について資料4-1-1】

障害者差別解消条例についてとても良いものと思っているが、周知が出来ていない。その中で、5ページ〈5〉①「民間事業者と連携したPR事業等による普及啓発」について、どのような事業所とどのような内容のPRを考えているのか具体的にお話しいただきたい。

〈回答者〉

区 障害福祉部 障害施策推進課 宮川課長

PR事業について、まだ現段階で明確なことは決まっていない。民間事業所の方から提案いただき、内容を審査して採用するかどうかという段階である。始まったら自立支援協議会でも報告していきたい。

〈質問者〉

地域生活支援センターMOTA 山梨委員

とても良い試みだと思うので積極的に行っていただきたい。

7. 令和6年度自立支援協議会の取組みについて

鈴木会長

令和6年度、各エリア協議会および部会の取組みに関しては資料5-1・5-2をもって報告とさせていただきます。

8. 今後の自立支援協議会について 資料6 当日配布資料2-1 当日配布資料2-2

鈴木会長

昨年度より自立支援協議会の在り方や方向性について検討を行ってきた。自立支援協議会をよりよいものにする足掛かりとして、資料6とそれに合わせた動画を作成した。本会構成員の皆様も含め、自立支援協議会に関わる全ての委員、また、新しい委員を迎えるにあたり、共通認識事項や役割について共有することを目的としている。詳しい内容は資料6をもって報告とさせていただきます。

さらに、より良い議論の場にする取り組みとして、一人一人の課題を「地域の課題」、「世田

谷区の課題」として取り上げて、エリア協議会や各部会など様々な場で活用できる「地域課題抽出シート」を作成した。ぼーと世田谷の山内様より「地域課題抽出シート」について説明していただく。

ぼーとせたがや 山内氏

昨年より、5エリアのぼーと（エリア自立支援協議会事務局）を中心とし、エリア会長、行政、基幹相談支援センターで、自立支援協議会をより良いものにするために協議を行い、「課題抽出シート」を作成した。詳しい内容については当日配布資料2-1、当日配布資料2-2をもって報告とさせていただきます。これからスタートしていくものであるため、今回は課題抽出シートを活用し、どのように運用していくと良いか一緒に検討していただきたいと思います。

エリア協議会・運営会議・本会はそれぞれ機能がある。困り事、地域の課題、困っているケースなどの情報が集まるエリア協議会では、課題の整理・検討を行い、足りない社会資源が見えてくる。エリアから運営会議に情報を上げ、さらに課題の整理・検討を行う。本会では皆様の意見をいただきながら、地域や福祉サービスの中で出来る事はあるのか、施策に反映できることはあるのか、一緒に考えていくことが大卒の機能と考えている。

今まで、5エリアそれぞれで、課題に対して何か取り組めることがあるのではないかと研修会の実施や、地域のお祭りへの参加、よりどころである居場所の設置、居場所マップ作りなどの取り組みを行ってきた。だが、その活動を運営会議や本会へ報告し、エリアで出た課題がその後どのように反映されているか見えにくい部分があった。エリアの課題を運営会議や本会へあげる方法にばらつきがあり、共通した課題の整理ができていなかった。共通にするためにはどのような方法がよいか協議した結果、「課題抽出シート」を作成した。世田谷エリアで先駆的に課題抽出シートを使って事例を当てはめて検討を行った。（当日資料2-1）

エリアの協議会には障害分野だけでなくいろいろな分野の方が集まっている。我々障害分野の職員だけでは見えてこない意見も集まり、視野が広がる。課題抽出シートがあることによって課題を整理することが出来る一方、エリアだけで考えることが難しい部分も出てくる。そこで、課題を整理したものを運営会議に上げ整理するとさらに多くの方から、意見をもらうことが出来る。ところが、さらに課題が膨らむこともあった。膨らんだ課題を再度エリアに戻し、エリアで検討して答えが出るかという、なかなか難しいところもある。今回の事例では、エリア協議会に本会委員の専門家にアドバイザーとして参加していただき、お話しいただいた。すると今まで出てこなかった専門的な情報をいただく事ができ、細かく課題を整理することができた。さらに、世田谷区内にあるインフォーマルな支援の知識を深めることや、他区の制度について学ぶこともできた。

研修や講演会講習会を開き考えることはエリアで行うことができるが、施策への反映や障害者理解の促進、新しい社会資源や福祉サービスを作るためには、全区的に皆で考えること、つまり本会の皆様の力が必要になってくる。

この課題抽出シートを作成し始めた思いとしては、皆が時間を調整し集まって行う会議を有益なものにしたいと考え、ぼーとの中でも自立支援協議会を生かして、「障害のある方の暮らしをもっといいものにつなげていくべき」との思いがあるからである。課題抽出シートを使用したことでディスカッションが活発になり、個の課題を地域の課題へつなげていくという視点が生まれてきた。課題の抽出方法はエリアごとで異なっても良いと考えている。まだ使い始めたばかりであるため、確実に進むことが出来るとは言えないが、より良い会議体にするためのきっかけになったと考えている。会議体と生活が交わる、つながることが大切と考える。この思いに賛同してくださった皆様のおかげで「課題抽出シート」という形にすることができた。協議会を良いものにしていきたいという思いから課題抽出シートの活用を提案させていただいた。

鈴木会長

課題に対しての協議、対応のプロセスがクリアに見えてきた。見える化されることが大切と考える。課題抽出シートについてご意見や質問があったらいただきたい。

〈質問者〉

相談支援センターあい 管理者 中川委員

課題抽出シートはとても良いと思う。気になった点として、エリア協議会の個別事例から地域課題を見ていくことについて、一つの事例の掘り下げよりは、さまざまな事例の共通事項を見ていきながら、地域課題を見つけていくことが重要と考える。リフレーミングの視点が大事になってくる。リフレーミングした際に地域課題となる段階のプロセスが大事になってくるが、リフレーミングの要素がみえにくい。何をもって地域課題としているのか。個別の事例を地域に無理に当てはめるように見えてしまう。生きる上、生活する上での課題、生きづらさについてさまざまな事例を見ることで、共通であることが見え、これが地域課題だと考えていくことが大切なのではないか。リフレーミングを行い、個々の課題、世田谷区の課題、東京都の課題、国の課題と、押さえていただけるとより良いシートになるのではないかと思います。

〈回答者〉

ぼーとせたがや 山内氏

参考にさせていただく。

鈴木会長

個別のことから見えてきた課題についても大事だが、複数のケースからの共通点、優先順位を付けながら取り組む視点も大事と感じた。

〈質問者〉

荻野副会長

リフレーミングについて教えていただきたい。

〈回答者〉

相談支援センターあい 管理者 中川委員

相談支援の領域の話になるが、物事はミクロ（個別・相談支援）・メゾ（各エリア・市区町村）・マクロ（東京都・国）という視点で捉えられている。事例の共通事項を見ていきながら地域課題をみていくことが重要と考えている。例えば「ヘルパーが見つからない」という議題について。「相談員がヘルパーを見つけられない」状況なのか。「事業所がない」という地域課題なのか。「人材育成を行っていない・給付費が少ないからそもそもヘルパーが少ない」という問題なのか。枠組を変えてみることで見えてくるものもある。（スライド資料：個別支援から協議会へ 段階のイメージ図／野中猛先生、小澤温先生 参考）

ミクロのレベルから枠組を変える事で、地域課題として置き換えるところが大切なのではないかと考えた。

〈質問者〉

荻野副会長

大事な点だと思う。いろいろな考え方をもっていくことが大切と感じた。

鈴木会長

先ほどの事例においてお力添えをいただいた堀委員から意見を頂戴したい。

世田谷区社会福祉協議会 権利擁護課長 堀委員

シートが有効に使われていたと感じた。個人事例の検討であったが、他の方にとっても共通的な課題ではないかというところまで議論が発展していた。今回は成年後見制度を中心とした情報提供を行ったが、とても有意義な議論が行われていた。

リフレーミングについては、エリア別に行っている話し合いを、運営会議でさらに検討する

ことにより、個別課題が地域課題に当てはまっていくのではないか。エリアそれぞれに適した議論の方法があると感じた。また運営会議や本会で、個別課題でなく世田谷区内に共通している課題かもしれないとなった際、再度エリアに戻し、より深まるような議論を行うなど、行き来して 詰めていくという視点が大事なのではと思った。

鈴木会長

事例を通して様々な繋がり、その中から見えてくる個別の課題だけでなく、皆で共有して行う事の良さが見えてきた。解決の方法については、地域のお一人の声がエリア協議会、部会、運営会議、本会への一方通行ではなく、相互性を持つことが大切だと改めて感じた。

自立支援協議会のありよう、議論の方法についてご助言いただいたが、提案を踏まえ、より具体的に本会という場での協議・議論についてどのように考えたらよいか。丸山委員から意見を頂戴したい。

立教大学 コミュニティ福祉研究所 丸山委員

世田谷区は大きな自治体であるため、本会の場で個別の事例を検討しても個別性が高くなることは仕方がないが、一方、障害者計画や障害福祉計画は自治体単位で策定される。具体的に個別の課題をどのように施策に反映すれば解決できるのか、どのようにつながることが出来たら問題が解決できるのか協議するためには、エリア・部会・運営会議・本会において個別の支援と地域的な支援などのメゾレベルと政策などのマクロレベルをつないでいかなければならない。解決するためにいろいろな自治体でもシートの開発をしている。世田谷区ではこの課題抽出シートがあることで、エリアでの検討の方法やケースは個別性が高いものの、一つのシートで共有が出来ると思う。その上で、これが地域の課題だから、次の計画策定の時に計画の中に入れた方がいいのではないかと、ここを手厚くした方がいいのではないかと、ということが協議会で議論されたり、それぞれの専門分野の方から意見が出されると、個別のニーズから地域のニーズに変わってくると思う。まずは、このシートを活用し、シートの改善や議論の方法の改善、各協議会での議論の持ち方の改善も今後走りながら一緒に考えていけたらと思う。課題が本会に出てくる際、個人の顔が見えにくくて、何が課題なのか分かりにくくなることを少しでも解消することができるツールとして、一歩前進したと思う。これを元に検討することで次の課題が見えてくると思う。

鈴木会長

90万人都市である世田谷区の規模の中で、個別のケースの中で生かすのか、個々に様々な形で助言をもらうことが望ましいのか、本会で行うことが望ましいのか、考え方はこれから出てくるかと思う。本会は専門性の高い方もいらっしゃる。そういった方々とのつながりについて、現場としての要望はあるか。エリアの会長を代表して大野委員からお話しいただきたい。

世田谷エリア 大野会長

シートを作成するにあたり、多大な時間を費やし、修正に修正を重ねここまで来た。シートのおかげで個別のケースを展開し、ディスカッションが活性化した。昨日、実際に事例検討したものと同じようなケースの方に遭遇した。ディスカッションしたことで参考になり、課題抽出シートを作成した意味はあったと感じた。課題抽出シートを作成したことによって、足りない資源、あったらいいなという資源について、すぐに解決方法が生まれるわけではないが、鈴木会長がおっしゃったように、本会委員の皆様に、課題抽出シートをどう活用するか、5エリアでまとめた事例を本会にもってきて、グループワークを行ってみたいという思いはある。委員の皆様から貴重な意見をいただき、地域の課題が解決していくのではないかと期待をこの課題抽出シートに持っている。

鈴木会長

どう活用していくか、エリアの中で活用していきながら、必要な事柄について、本会の中で

も議論をしていきたいとのことだった。課題抽出されたものが増えてくると、どこを本会の皆様と分かち合うのかという選別については運営会議等で協議していく必要があるかもしれない。部会に関わってくださっている河合先生一言いただきたい。

子ども部会 河合会長

話し合い、対話、ディスカッションが増えたということは、建設的な対話というワードを持ってくるならば、このようなことが大切な事である。できあがったものをそのまま使うのではなく、どういった経緯で課題が出てきたか説明することが、安心感に繋がり、重要になってくる。話の中にあつた「循環」、エリアに戻っていくようなことも良いのではないかと思っている。本会でのグループワークの中で、エリアで話し合うべき事が出てくるかもしれない。行き来を丁寧に行っていくことも必要だと考えている。グループワークを行い、同様の課題事例が増える事で改めて固まることも出てくるかもしれない。それが本会での整理に繋がってくるのではないかと。

鈴木会長

課題抽出シートの活用の在り方について今回初めてお示ししたが、充実させていかないといけないと思っている。

青島特別支援学校 PTA 会長 花澤委員

大きな会で「空気を共有する」ことが大切かと思う。相談支援に繋がらない保護者が多い。シートを作るにあたって、ケースの課題を各エリアで何割程度把握しているのか。エリアの自立支援協議会で把握しているという感覚はあるのか。相談支援につながらない方はそもそも何も知らないという方が多い。自分で乗り切るしかないと思われる方が多い。広くあまねく救われる方が多くいると良いなと思っており、ぽーとやエリアの会長に伺えたらと思っている。

ぽーとせたがや 山内氏

これから地域の中でエリアの課題をどう選定していくかは難しい作業になる。各エリアでどこまで吸い上げていけるかがカギになる。100%は難しいが、限りなく100%に近づけるよう本会のみなさんと一緒に協議をしながらいい形にしていきたい。エリアも一生懸命行うが完璧ではない。抜けも多くあると思っている。「抜けている」ところをお声を出していただくきっかけになったらいいと思っている。課題抽出シートを取りまとめた立場としては、このシートを使って課題を吸い上げられるようにしていけたらいいかなと思っている。

青島特別支援学校 PTA 会長 花澤委員

他の分野でもシートを作り上げる事に力を入れたうえで、それを使いきれなかったり、そもそも相談支援、保健福祉、ハローワーク、それぞれでケースの管理をされている中で、それをエリアの課題として、まとめて世田谷区の施策にもっていく必要があると思っている。積極的に共有・連携していった欲しいと思う。

鈴木会長

個の課題から見えてきた取り組みについて、施策も含めて考えていくことが協議会の大きな役割かと思う。ぽーと関係者から杉山委員の意見をお願いしたい。

地域生活支援センターMOTA 杉山委員

ぽーとの事務局としての意見になってしまうが、これまで事務局はどうしたらいいか分からず悩んでいた。エリアごとに活動は行っていたが、他のエリアが何をしているのか、何に困っているのか分からず、運営会議や本会で各エリアの代表が報告して終わるという状況であった。縦のラインはあるが、横串となるものがなかった。そこで横のつながりを持つツールとして、このシートが出来上がってきた。エリアの運営委員の方々のほとんどが障害分野の方である。本会にもってくる意味としては幅広く専門分野の意見をいただける。課題抽出シートを作

成したことで同じツールで話し合いを行い、世田谷区をより良くしていくきっかけになったらと思う。現場の小さな声をこれから広げていかなければならないと思っている。

鈴木会長

課題を見える化し、検討することの大切さを感じた。課題抽出シートを生かすことも大切だが、ここに乗っかるということはなんらかの形で課題が誰かに届いているということである。相談支援に結び付いていないという事自体も課題である。久我山青光学園や青鳥特別支援学校に訪問して、相談支援について周知を行っている。その件について薬師丸さんからお話しいただきたい。

事務局 基幹 薬師丸

相談支援ワーキングの活動として、7月22日に久我山青光学園に伺い、相談支援についての説明会を行った。青鳥特別支援学校についても9月13日に行う予定である。少しでも相談支援についてご理解いただけるよう取り組んでいる。その際に、学校の先生や保護者から質問をいただけたらと思っている。少しでも身近なものになったらと思い取り組んでいる。

青鳥特別支援学校 PTA 会長 花澤委員

本人のADLや住むところ、学年が上がることで課題の内容も変わってくる。成人した方の保護者とも関わる機会があるが、在学中は、学校の先生に相談出来ていたが、卒業後、気軽に相談できる場所が見つからないと困っている保護者がたくさんいる。本会は、医療・教育・福祉・行政が連携できる場であると思っている。福祉に限らず、多角的な意見をいただけたらと思っている。世田谷区は制度がたくさんあるが、必要な人に必要なものが届かないところも多い。そういうところにもアンテナを立ててもらいたい。

鈴木会長

本日いただいたご意見は運営会議に持ち帰り、それぞれ進めていただきたい。シートの活用は、エリア、部会から発信されていくが、本会のメンバーの方でエリアに属していない方も課題抽出シートを使っていただくことは大歓迎である。基幹相談支援センターが取りまとめを行っていただきたい。課題を皆のものにして、皆で取り組んでいくことに資するものにしたいと思う。

9. 世田谷区からの報告・協議事項

鈴木会長

世田谷区からの報告、協議事項に進みます。こちらも障害施策推進課 宮川課長より報告願いたい。

区 障害福祉部 障害施策推進課 宮川課長

【地域生活支援拠点等の整備状況について】

5つの機能（①相談 ②緊急時の受け入れ・対応 ③体験の機会・場 ④専門的人材の確保・養成 ⑤地域の体制づくり）があるが、既に始まっている相談、緊急時の受け入れ・対応について、緊急時バックアップセンターの登録者が先日の確認状況によれば、383名と増えてきている。拠点等整備に参加している事業者は、相談支援機関4事業者、ショートステイ12事業者、居宅介護（ヘルパー）1事業者となっている。体験の機会や場の機能について、本年度は知的障害を対象とした一人暮らし事業を開始している。自立へ向けて1泊2日のプログラムを3回くらい体験することが出来る。5名募集したところ、14名の応募があり抽選となるほど反響が大きかった。

専門的人材の確保・養成の機能については、研修という形で当事者の意思決定支援、選択を支えることについて取り組んでいる。来年度以降にはなるが行動障害を有する方への支援についての研修も検討している。

鈴木会長

相談・緊急の受け入れ・対応、体験の機会や場の提供、専門的人材の確保・養成、地域の体制づくり等多くのことを行っている。多くの事業所の協力を得て「面的整備」それぞれの機能をつないで一つの面のような形で、障害のある方の生活の安心を提供していく事業が進みつつある。

鈴木会長

最後に全体を通して質問や意見があったら発言していただきたい。

相談支援センターあい 管理者 中川委員

課題抽出シートの本会での使用方法について、花澤委員からもあったが、まだまだ事例は地域に眠っている。いろんな生きづらさの課題がある。一つにフォーカスするのではなく、いろいろな事にフォーカスすべきと考える。シートを使用し複数の事例を検討し、さまざまな事例の中で共通事項が上がり、共通するポイントの抽出を行う。運営会議はフィルターの役割だと思っている。運営会議で交通整理を行う。一方、運営会議でのそのような取り組みが協議会のエンジンともなる。本会で地域課題として挙がってきたことを検証し、多角的な意見や専門的な意見をもらう。本会で検討し、資源がない場合、資源の開発・改善につなげ、資源があるならば、解決可能な課題として分類整理を行う。機能として具体的な役割と構造を持って協議会を進めていくのがよい。出す側も受ける側もそれぞれ役割がわかりやすい方が何を答えたらいいかわかる。受ける側としては、出された課題が自分の領域での項目に当てはまるのか、イエスかノーかを答えるだけなので答えやすい。

また、相談支援につながらない人の件については、相談支援ワーキングにおいて、昨年度全相談支援事業所に対して計画相談のアンケートを行った。受け入れ可能かどうかの判断基準が、自分の担当地域内であり、受けられる余力はあるが受けていないという報告もあった。計画相談に繋がっていない方にどういう風に利用していただくかを考えていきたいと考えている。

鈴木会長

シートの活用と相談との繋がりについて、ご意見ありがとうございます。

玉川砒薬剤師会理事 橋元委員

3点ほど話をさせていただく。1点目は、去年、今年、活動の計画や報告を見ていて、「災害」がキーワードになっている。災害について「災害対策部会」というようなものを作って、全体で継続して考えていく必要があるのではないかと思います。本会で災害について話し合い、世田谷区の医療救護所等の話し合いなどに上げていくというような形があれば、課題がそのまま世田谷区に上げる事が出来るのではないかと思います。提案させていただいた。

2点目は、災害の時の薬について、常日頃から2～3日分の薬とお薬手帳を携帯することをお勧めする。持ち歩くことで命をつなぐことが出来る。かかりつけの先生に相談し、お薬を多めに出示してもらうなど、気にかけていただきたいと思っている。

3点目は、災害時の医療的ケア者についての議論は世田谷区のどこで発言したらよいか分からない。玉川砒薬剤師会理事からも話が上がっているためお聞きしたい。

鈴木会長

「災害に関する部会の設置」については運営会議や行政とも相談させていただく。薬剤に関する備蓄・手帳の携帯・お薬の予備についての情報提供をいただいた。災害時の医療的ケア者について行政、あるいは基幹の中でお話しいただけることはあるか。

区 障害福祉部 障害保健福祉課 石川課長

所管で医療的ケア連絡協議会をもっている。その中で医療的ケアの課題、災害の対応についてはまだ着手していないが、課題と研究検討をしているので、何か声があれば障害保健福祉課に相談いただけたらと思う。

鈴木会長

障害保健福祉課が窓口となっているとのことで、是非双方からアクションを起こしていただけたらと思う。

青島特別支援学校 PTA 会長 花澤委員

課題抽出シートを紙で配っているが、今後のどのような形での入力をされていくのか。個人情報情報を省いた状態で入力されると思うが、入力しやすい形でないと実際に使われないのではないかと危惧している。ぽーとやケースワーカー、相談支援の皆さんがどう情報を管理されるのか具体的に教えていただきたい。

事務局 基幹 薬師丸

今は地域課題抽出シートについて、月1回開かれる運営会議で各エリアの取組み状況を伺い、まとめ方の難しさを共有している。それぞれのエリアでプロセスは異なるが、大事なのは、地域課題抽出にある。シートの使用については、エリアから始めたところだが、部会の方でも検討していただきたい。

鈴木会長

個人情報についても配慮していくことが大事だと思う。

砧エリア 荒井会長

地域課題の抽出が自立支援協議会の大きな役割の一つであると考えている。以前から事例検討を通して地域課題の抽出を行っていたが、エリア協議会の参加者でも力量、思い、得意分野、目標が異なる。個別の事例に寄り添いたいところもあれば、一方で部会の立ち上げや施策を変えたいと動いているところもあった。意見が施策に反映されていることが見えにくいいため、自分達の意見や提案は届いていないと感じる方もいた。エリアや運営会議、本会の相互関係が図式では明確になっているが、実際はそうではなかった。

課題の抽出やまとめる方法がエリアに一任されており、報告方法もバラバラであった。個人がやりたい事を強く出していたという反省がある。エリアの協議会事務局会議は1か月に1時間、エリアの運営会議は1か月に2時間ほどで、この時間の中で地域課題の抽出とそれぞれのイベントの検討を行う。時間的に制約がある。今回地域課題抽出シートができあがり、どう検討していくか、社会資源の開発とは何か、一つの事例のみに固執するのではなく、事例数を重ねていき、検討事項を事務局で精査し、やり取りを重ねることが大切になってくると感じている。

鈴木会長

課題抽出シートについては、自立支援協議会に関わる方々でより良い形に活かしていけるよう、意見をいただきながら進めていきたい。

10. 事務連絡および閉会挨拶

事務局 基幹 鈴木

次回の本会は、令和7年1月31日を予定している。スケジュールの調整をお願いしたい。

鈴木会長

ご意見・ご連絡は事務局である基幹相談支援センターが窓口となる。これにて令和6年度第1回の世田谷区自立支援協議会本会を閉会させていただく。長時間に渡りご参加いただき感謝申し上げます。